

ICT活用マスター研修(中学校)

ICT活用マスター 笹原中学校 主幹教諭 坂手 隆人
笹原中学校 教諭 久森 祐也
松崎中学校 教諭 柿 貴志

担当指導主事：長谷 慎一

キーワード：タブレット ICT活用 ITリテラシー向上 初任者

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
1月30日（木）	笹原中学校 久森 祐也 教諭 等	総合教育センター 5階ワークステーション	「効果的なタブレット活用について」

2 主な内容

「ICT活用マスター研修」

技術家庭科教員及びICT活用推進教員(リーダー)担当者、初任者を対象にした研修会を実施。各小中学校に40台導入されたタブレットの活用方法を中心に授業での活用方法の研修を行った。

(1) タブレットの使い方について

今年度伊丹市内の各小中学校に導入されたiPadの使い方を研修した。カメラの使い方ではスロー、タイムラプス録画などの特殊な撮影方法や利用できる単元・教材の紹介を行った。

また、マップの2Dや3Dでの表示の切り替えや効果的な利用方法について紹介を行った。

(2) 授業支援システム「school Takt(スクールタクト)」について

今回導入されたタブレットに組み込まれている授業支援システム「school Takt(スクールタクト)」をどのように授業で活用することができるかということ、生徒の立場になって体験してもらった。投票機能やワードクラウド機能など授業の中での活用方法例を提示した。また、振り返りや評価の活用方法についても紹介した。



3 成果と課題

(1) 成果

- ① iPadの機能について新しい発見をすることができ、授業での活用方法を示すことができた。また、研修の最初にiPadの操作方法についてアンケートをとり、操作に自信があるという教員の割合がおよそ50%であったが、終了時に再度調査をしたところ、80%程度になっていた。
- ② 「school Takt」の機能と基本的な使い方の紹介ができた。特に投票機能やワードクラウド機能を利用した協働学習の方法を示すことができた。

(2) 課題

- ① 教員よりも子どもたちの方がタブレットの操作については慣れている。実際に中学校の生徒対象に行ったアンケート結果では80%以上の子どもが操作に自信があると答えている。教員が今後も効果のある利用方法など研修を続けていくことが必要である。
- ② 今後は、課題の作成方法など教員側の立場で使いこなすことができるように研修等を計画していくことが必要である。